

専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充 ^(シ06)

研究組織 橘川英規、米沢玲、田代裕一朗、江村知子、安永拓世、二神葉子、小山田智寛、吉田暁子、小野真由美、城野誠治、阿部朋絵、大前美由希、尾野田純衣、小林真美、鈴木良太、高階郁美、田村彩子、寺崎直子(以上、文化財情報資料部)、塩谷純(首席研究員)、小林公治(特任研究員)、山梨絵美子、永崎研宣(以上、客員研究員)、久保田裕道(無形文化遺産部)、早川典子(保存科学研究センター)、金井健(文化遺産国際協力センター)

目的 当研究所が行う文化財の調査・研究の成果を集約するとともに、専門性の高い資料や情報を蓄積・整理する。あわせてデータベースの継続的拡充を行い、資料閲覧室を窓口にして文化財に関する総合的レファレンスを充実させる。

成果

1. 全所的な文化財情報の発信

- 副所長を委員長とするアーカイブWGを例年通り4回(5月16日、9月8日、12月8日、5年3月9日)開催し、アーカイブの拡充と積極的に情報発信を行うための協議をした。
- 文化財画像の効果的な利活用のために、著作権などに関する法律問題を広く扱う弁護士数藤雅彦氏を招き「データ利用についての実務を学ぶ勉強会」を開催した(7月10日)。
- 当研究所の所蔵資料を活用した文化財研究を支援するために、大学・大学院学生、美術館・博物館職員を対象とした「資料閲覧室利用ガイダンス」を立ち上げ、実施した(7月1日)。

2. アーカイブを利用した研究・外部機関への協力

- 戦前の消失前の写真を「京都智積院の名宝」展(サントリー美術館)に提供し、報道にも協力したほか、「いにしえが、好きっ!」展(国立歴史民俗博物館)にガラス乾板画像を提供した。
- 田中一松資料に含まれる、祥啓作品の調書やノート、関連する戦前の売目録を、神奈川県立歴史博物館で開催される「あこがれの祥啓」展に出陳するために貸し出し、同館の展示企画に協力した。

3. 文化財研究のためのデータ蓄積と公開

- 文化財防災への活用も見据えて、「東文研総合検索」等文化財アーカイブ機能を更新した。特に「展覧会における新型コロナウイルスの影響データベース」に新規に50件を追加し、3年公開分も適宜、更新した。
- 当研究所75年史編纂資料の編成・記述に取り組み、概要と一部リストを資料閲覧室ウェブサイト公開した(2023(令和5)年3月31日)。またこれに関する取り組みを部内研究会にて報告し、関係者との情報共有を実施した(2023(令和5)年1月31日)。
- 当研究所が所蔵するX線フィルムのデジタルデータ約4,150件の目録を公開した(2023(令和5)年3月)。



「資料閲覧室利用ガイダンス」の様子

資料閲覧室事業の運営

- 資料受け入れ数：感染症防止対策のため3年度に引き続き事前予約制での開室を継続、週3回(4月15日までは週2回)開室した。図書等の受け入れ和漢書1,909件、洋書53件、展覧会図録・報告書等1,909件、雑誌2,903件(合計5,955件)・閲覧室利用状況：公開日総数129日・年間利用者合計877人

論文

- 江村知子：「失われた寒山拾得像をもとめて—文化財アーカイブの奇跡」『妙法寺蔵 与謝蕪村筆 寒山拾得図 共同研究報告書』23.3
- 米沢玲：「展覧会評 ブッダのお弟子さん 教えをつなぐ物語」『美術研究』438 pp.41-48 23.2

発表

- 田村彩子「年史編纂資料の研究活用に向けた記述編成—東文研史資料を例に」文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 23.1.31